

# 令和2年度 自己評価計画書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものにするため、タブレット等のICT機器の利活用を進めながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践に努める。	① 校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観や校内での研修を通して、タブレット等のICT機器を活用した、より効果的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	全教員が公開授業または研究授業を行う。数字は64%であったが、ICT機器を用いた授業が昨年度以上に多く見られるようになった。校内研修会の開催など普及に努め、わかりやすく魅力ある授業づくりに取り組んでいく。	【努力指標】 年間を通し積極的にタブレット等のICT機器を活用して、よりわかりやすい授業実践を継続的にしている。	他の教員の授業や中学校の授業を参考にタブレット等のICT機器を活用して、積極的に授業改善を行っていると答える教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。 (教員によるアンケート)
	② 「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上に繋がるより効果的な言語活動を授業実践を中心に学校全体で行う。	教務課 各教科	多くの授業で、生徒が他の生徒と話し合ったり、自分の考えを発表したりする場面が見られるようになった。1月から、全国の優れた実践授業を視聴できるサイトへの登録を行った。これらも活用し、継続して取り組んでいく。	【努力指標】 各教科で主体的・対話的で深い学びに関する研究協議を持ち、授業実践を行い、その成果を全教職員で共有している。	言語活動の充実を意識して、主体的・対話的な授業実践に取り組んでいる教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。 (教員によるアンケート)
	③ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、定期テストと結びつけるなど計画的に学習する習慣をつける。	教務課 各学年 各教科	学年・教科の指導の効果が現れていない。学習習慣が定着するために、学ぶことの楽しさを体感するような授業を実践し、学習することの意義を継続して伝えるとともに、ICT等を活用して、家庭で学習しやすい環境を整備する。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、その提出を徹底させて、放課後学習を含めた授業以外の学習時間の確保を図る。	1日の学習時間(授業以外の学習時間)が2時間以上であると答える生徒の割合が A 50%以上である B 30%以上である C 10%以上である D 10%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。 (生徒によるアンケート)
	④ 進路シラバスを作成し、内容を理解させる。また、計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。	進路指導課 各学年	前年度72%だったので、今年度は外部人材を活用したキャリア教育の行事の開催時期を調整し、「総合的な探究の時間」とも連携して、生徒が自らの進路について考える機会を多く持たせたい。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が、探究的に行われ、生徒が主体的に学べるよう計画的かつ効果的に機能し、進路目標が明確化している。	本校でのキャリア教育が、生徒の主体的な活動をとおして意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。 (生徒によるアンケート)
2 挨拶や時間、服装容儀などの指導を通して基本的な生活習慣を確立するとともに、外部人材も活用して協調性やコミュニケーション力を身につけ、豊かな人間性と社会性を育む。	① 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させる一方、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	昨年度と同じ人数(25人)であった。朝学習強化週間や徹底した遅刻指導、保護者との協力体制構築などの取り組みを継続し、今年度は遅刻常習者の行動改善に繋がる取り組みを行っていききたい。	【成果指標】 年間を通じて遅刻5回以上の生徒の割合が令和元年度を下回るようにする。	年間を通して遅刻5回以上の生徒の割合が A 10%以下である B 12%以下である C 14%未満である D 14%以上である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。
	② 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察する。また、いじめ等の問題には早期にいじめ問題対策委員会(対策チーム)を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。	生徒課 教育相談室 各学年	SNS等に起因するいじめ等の問題行動は前期に多かったが、後期に入り減少した。家庭内のトラブルに対しては、複数の外部機関と連携して対応した。今年度も初期指導を強化し、問題を未然に防ぐ努力をしたい。	【満足度指標】 全職員が共通理解し、いじめ等の問題なく生徒が安全で安心して学ぶことができる教育環境になっている。	各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と組織的対応がとれたと答える教員が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。 (教員によるアンケート)

# 令和2年度 自己評価計画書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 学校の魅力をさらに磨き、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進するため、校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行い、広報活動を充実させる。	① 地域及び小中学校、大学等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	学校からの通知や配付物が届いていないという保護者が多いので、今年度もメール配信を充実させ対応する。広報の充実とともに配付物等が確実に保護者に届くように生徒に伝えていく。	【満足度指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校、大学等との交流活動等について、その取り組みや内容が保護者等にしっかりと伝わっている。	各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。（保護者によるアンケート）
	② 地域や小中学校、大学等との交流事業、学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子をホームページを通して積極的に外部に発信する。	総務課 各コース	30回以上更新から全く更新しなかったままで、教員間の差が大きかった。今年度はホームページ等の講習会を開き、その場で部活動などの内容の更新を図るようにしたい。	【努力指標】 各行事が終了するごとに情報の更新を速やかに行う。各コースの特色を活かした教育活動の取り組みや、部活動等の様子がわかるように内容を順次改善する。	分担する課や学年、部活動等のホームページの更新回数は年3回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。（教員によるアンケート）
	③ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。	生徒課 各学年	生徒会、部活動、音楽専攻、美術専攻の生徒を中心に近隣の学校や施設を訪問し、各種ボランティア活動をこれまで以上に積極的に行った。金沢市の「金沢絆の日活動」「雪かきボランティア」にも積極的に参加したい。	【成果指標】 生徒のボランティアに対する意識を高めるとともに、年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に取り組む機会を提供する。	生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が A 65回以上である B 55回以上である C 45回以上である D 45回未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に生徒課が調査する。
	④ 地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	辰巳祭等の行事後のアンケートではほとんどの生徒が積極的に参加したと答えている。他の行事や活動にも生徒自身が企画・運営する場面をつくり、充実感や達成感を得られるよう工夫したい。	【満足度指標】 生徒が生徒会行事へ主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができている。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。（生徒によるアンケート）
4 授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた学習指導を行うため、学校や教員が担う業務を整理し、実情に合わせて業務の役割分担・適正化を図り、多忙化改善に努める。	① 職員の働き方を考え、工夫して、一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、学習指導、生徒指導など、各自の業務に専念できる環境づくりを進める。	管理職 各課・室 各学年	学年毎に職員室が分散しており、物理的に協力体制がとりづらい。また、年々教員数が減少しているため、1人が担う役割が徐々に増えている。周りの人が担当している業務を知り、業務負荷が高いときに助け合える環境をつくるなど、学年・教科・課を超えて、お互いが様々な形で連携しながら、業務の平準化を図り、全員のワーク・ライフ・バランスを実現するために、取り組んでいく。	【満足度指標】 全職員が計画的な業務の遂行を意識し、教材等の共有を図るほか、役割分担の見直しで業務の平準化を行い、組織的な学校運営で時間外勤務時間を減らす。	組織が有機的に機能していると答える教員が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、2月に調査する。（教員によるアンケート）